



# 1人ずつでは変えられない 願いを束ねる 労働組合最大の取り組み 確定交渉

確定交渉に参加した感想を寄せてください



和歌山県教職員組合では一〇月一七日に第一回交渉を行い教育長に要求書を渡し、一〇月三〇日に第二回交渉、十一月七日に第三回交渉を行なってきました。この時報がみなさんのところに届くころには一十一月一九日には第四回交渉を終えていると思います(交渉結果は速報で職場に届けています)。

和歌山県教職員組合では一〇月一七日に第一回交渉を行い教育長に要求書を渡し、一〇月三〇日に第二回交渉、十一月七日に第三回交渉を行なってきました。

要求書はみなさんの「多くの願いをもとにできています。職場会を開催し、個人要求書や職場要求書を書いたり、署名活動に取り組んだり、多くの方がこの交渉に関わっています。そして日々忙しい中、会場に足を運んで交渉に参加した組合員も大勢いました。参加した組合員からは「物価高騰に見合う賃金を」「障害児(支援)学級・学校の学級担任は学級担任手当の対象外なのはなぜ?」「可能な限り、駐車場を利用している人に補助の実現を」「会計年度任用職員の再度の任用の上限撤廃を」「採用試験の時のクールビズを要項に記載を」「教員がもっと多ければ、今以上に子どもたち

に寄り添える」など多くの発言がありました。

これらの取り組みで多くの前進的な回答を引き出すことができていると思います。「子どもたちのために、そして自分のために、自分だけでなく同僚のために」年末確定交渉に取り組んできました。

「困難」という県教委の回答を聞いて思うこと、交渉に参加された方、前進的な回答を聞いて思うこと、など。

今回、確定交渉の取り組みでの感想を皆さんから寄せていただければと思っています。



QRコードを読み取って、皆さんの感想を送ってください。機会を見て、共有したいと思います。

感想フォームへのQRコード



年末確定交渉の真ただ中。職朝を行わない学校が増えていますが、交渉で

勝ち取ったことを朝一番に伝えることが組合の最大の見える化です。組合の掲示板があるところは赤枠速報(勝ち取ったことを掲載)を掲示したり、ないところでも回覧したりして、職場の中で話題にしていく。賃上げや権利闘争は組合員でなければできないことだし、もちろん管理職が与えてくれるものではないからです。「駐車場代が高くて会計年度職員さんは車の通勤を我慢している」と管理職に言った時、「その条件が分かっていたら採用されている」と言われ、憤りを感じていましたが、今回の交渉で駐車場の補助が検討されることになり、光が差し込みました。そして「私たちも差額が出るの」と管理職に問われ、「交渉中です」と胸をはって応えておきました。(I)

## 「第二六回登校拒否不登校問題 全国のつどい」に参加して

「ひとりで悩まないで」「子どもたちをま

ん中に」「立場をこえてみんなで語り合う」今回初めて（全国のつどい）に参加しましたが、全体会も分科会も終始、安心感あふれる温かい雰囲気を感じることができました。

特に、参加した分科会『障がいがある（あるかもしれない）子どもの登校拒否・不登校』の分科会では、今現在悩みを抱えている保護者や元保護者、元当事者の方、また長年不登校の子どもに関わってこられた方や現在現場



で子どもたちに接している教員やSSWの方など、様々な立場の人が不登校の子どもたちと彼らの置かれた状況について、自らの立場から語られていたのがとても印象に残りました。

私自身、元不登校児の親として、また障害児学校の教員として、常に子どもの発達や個性の子どもたちとの向き合い方、自分の行動の在り方について試行錯誤の日々を送ってきました。「子どもを信じて待つ」「学校に“行けない”のではなく“行かない”という視点（自分の心を守る）」

「大人の先回りの“よかれ”や“不安解消”ではなく、子ども自身の“今の不安の解消”や本人の選択”など、かつて自分が悩みつつも医師や臨床心理士、講演会や書籍などから

紀伊コスモス分会 寺西 有里

得た「大切にしてきたこと」がみなさんのお話を聞きつつ次々と思いつきました。

また、子どもに関わる大人の認識をアップデートしていくという課題と同時に、学校内

## 教育要求県民集会

### 保護者のねがいに寄り添って

一〇月一六日（木）和歌山市の書道資料館において和歌山県教育要求県民集会が行われました。

この会は和歌山の教育に関して、保護者の方や地域の方々への思いを教育委員会に直接伝えることができる場です。和教組をはじめ様々な民主団体を手をつないで『民主教育をすすめる和歌山教育連合』を組織して、主催しています。

今年には保護者・地域の

で必要な支援が受けられないという問題に直面している子どもがいるということや、成績主義的でマルチリポートメントな対応の根本的な原因が『“学校”というシステム』だということも痛感させられ、今後よりいっそう教員と保護者の連帯と運動が必要だと感じました。

和教組書記長 山崎 浩廉

方々から7つの発言がありました。障害児

（支援）学校の新設を、「医療的ケア」を要する児童生徒の教育の充実、東牟婁地方に発達相談機関の設置、通信制高校に関する要求、不登校の子どもの教育保障などでした。どの発言も切実で、正当性のあるものばかりでした。教育委員会



の方々も直接保護者・地域の方の声を聞き、実態を知りうる機会になったはずです。

保護者の方々の声を聞きながら日々取り組んでいます。本当に制度や全国の状況をよく知っており、理論的でもありません。教育委員会の方の回答にも的確に鋭く質問されていました。その中で、気づかされたことがありました。

二〇年ほど前は「通学時間を一時間以内に」と各地域に障害児（支援）学校設置を求め、

またスクールバスの増車を求めてきましたが、保護者の方の「何かあった時に学校まで車で1時間かかる。すぐに行けない。もっと近くに設置してほしい」という言葉を聞き、「一時間は遠いな」と共感しました。以前は条件が悪かったので一時間半以上かけて通う実態があり、それに応じての「一時間以内」でしたが、今は違うと思えます。

教育条件を良くしていくための原点に触れることができた気がします。



# 職場アンケートはみんなの意見が聞ける

九月六日(土) 七日(日)、障害児学

校部の職場活動交流合宿が白浜「湯処むるべ」で行われました。今年は夏の専門部交渉に向けて各職場で取り組んでいる職場アンケートを持ち寄り交流しました。アンケートは組合員だけでなく未組の先生にもお願いしている分会が多かったのですが、結果については分会ラインで分会全体に共有したり、執行部だけで共有したり、と様々でした。せっかく協



力していただいたアンケートなので結果をどう伝えるか(組合員はもちろん未組の方にも)を考えていかなければ、と思いました。アンケートは、様々な立場の人の意見を聞く事ができる貴重な場なので、上手にアンケートを活かす方法を考えていきたいですね。

参加された先生から、アンケートをとったり、話を聞いたりする機会が組織拡大につながっていくんだと教えていただきましたので、いろんな人の話を聞く機会を持ち、組織拡大につなげていきたいです。

職場活動交流合宿は他校の先生と話す事のできるとてもよい機会です。「各校の様子が分かって良かった」「交流ができてよかったです」といった声も聞かれました。もちろん、むろべのお風呂と食事

もよかったですよ。来

紀北分会 芝崎 裕美

年も計画しますので多くの先生と一緒に参加したいですね。



## 障害児学校部 夏の合宿&秋の近ブロ

### この子と出会ったことがある?と思える実践報告 学びを深めた秋の滋賀

障害児学校部 秋の近畿ブロック学習交流集会Ⅲ滋賀

盲学校分会 中尾 久美子



今年は一二月八日(土)に滋賀のピアザ淡海にて「今こそつながりあい、学びあおう!」とのテーマで開催され、和歌山からは二名で参加してきました。午前の実践発表では、滋賀と奈良から一本ずつのミニ実践発表があり、宮本郷子先生(元龍谷大教授・立命大講



師)からご助言いただきました。二本と、私この子と出会ったことあるんちゃうか?と錯覚するような感覚になったとの感想が出てくるほど、子どもやクラスの様子がリアルに綴られていました。うまくいかなかったことも赤裸々に語られ、日々悩みながら奮闘されている先生方の様子に、参加者も共感しながら共に学べる時間となりました。昨今のマニユアル化された授業づくりや行動変容だけを良しとする評価に悩む現場の先生方にとっては、非常に勇気づけられる

内容であったように思います。

午後は六つの分科会に分かれての実践発表でした。寄宿舎をとりまく情勢の変化に伴い、今回から寄宿舎の分科会も新設されました。私たちが参加した「二、三才頃の発達の時期」の分科会では、とある小学部知的教育部門の子どもの給食の様子についてのレポートが出され、レポーターである若手の先生からの奮闘されてきた経緯や悩みをもとに、質疑や、それぞれの経験談や助言などを出し合って討論し、レポーターが「勇気づけられた」「発表してよかった」「また実践をがんばりたい」と思える分科会になりました。一月には千葉での全国学習交流集会が控えています。ぜひともみんなで誘い合って、現地で学び合う良さを味わいに行きましょう。

全国の要  
項はこちら!



# 会議の仕方、工夫してみました

那賀支部 書記長 部家 司好



みなさん、お疲れさまです。学校現場は年中多忙で、毎日が精いっぱいだという状況にあるのではないのでしょうか？その上、組合の会議に出席しなければいけないとなると、ため息もつきたくありませんよね。出席してもらおう立場の私からすると、職場から来てもらった先生方に、「来てよかった」まではいかなくとも、「そうだったんか」「勉強になったな」「言いにくいこと言えたな」と思ってもらえるような会議に思っていないのではあ

ります。しかし、始めてみると提案が長くなつてしまい、質疑の時間を取る間がないか、あったとしても出せる雰囲気になつておらず、結局は「あれをしておいてください」や「…お願いしておきます」「…していきましよう」という一方的な提起になっていました。今年の夏「和教組パワーアップ講座」に参加し、大阪府職員労働組合の委員長、小松康則さんの話を聞かせてもらいました。小松さんも会議の持ち方に悩み、参加したくなるような会議や活動を試行錯誤しながら確立してきたようでした。すぐには自分の会議に当てはめることは無理でも、少しでもできることから始めようと考えました。

実践その三、いったん会議は終了し、残れる人でも四つのグループ(地区別)になり、職場のことや困っていることや要求などを話し合う。これら三つのことを実践しました。特に、グループの話し合いでは、みんながしゃべり、大変盛り上がります。それを担当常任が記録しておくようにしています。多忙な中ですが、会議で意見を出せる雰囲気になれば、要求やぐち、組合活動のアイデアも出てくると感じています。みなさんの学校での会議も、意見が出せる雰囲気や工夫をしていきましよう。



未来輝く子どもたちと  
教職員の皆さまの安心のために



教職員のための  
『教弘保険』



(公財) 日本教育公務員弘済会 和歌山支部

提携保険会社：ジブラルタル生命保険株式会社

- ◆和歌山第一営業所 073-421-8250
- ◆和歌山第二営業所 073-421-8250
- ◆和歌山第四営業所 073-421-8250
- ◆橋本営業所 0736-33-1620
- ◆田辺営業所 0739-22-5751
- ◆新宮営業所 0735-22-0101

日教弘紹介動画

和教組公式LINE&インスタ



@WAKYOSO